

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000016		
法人名	社会福祉法人 宥恵会		
事業所名	グループホームゆうけいスマイル		
所在地	大阪市住吉区遠里小野2丁目7番20号		
自己評価作成日	令和3年1月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名のみの個別ケアに力を入れ『職員本位とならないケア』を目標としている。レクリエーションを楽しめる方、居室で過ごす方、入浴をゆっくりされる方など個人の過ごし方を尊重。お風呂は毎日開放し、夕食後の夜間入浴も毎日実施している。明るい食堂では、大きな窓から覗く木々に囲まれ談話をしながら食事を楽しませている。ガーデンテラスはバリアフリーで出入りが自由。日々のおやつやバーベキュー、菜園も楽しみで、花を咲かせて季節感を味わい、野菜を収穫し食卓にのぼる。地域行事にも積極的に参加し、敷地内の大ホールではボランティアの方の行事や地域との交流がある。医療面では訪問看護師と併設の診療所(内科・精神科)とで医療連携にも力を入れ、歯科の往診と歯科衛生士による口腔ケアや医師の診断により居室内でのマッサージも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表は歯科医師をされており口腔ケアを重視し、毎食後の歯間ブラシ・ブラッシング等肺炎予防の支援に努めている。当事業所は5階建ての法人の複合施設の1階に1ユニット9人で開設して15年目になり、同フロアの広いホールは近所の子供達の太鼓練習や、社協主催のカフェに開放して地域交流がなされている。事業所は広くて明るくリビングや廊下には何時も生け花を飾っており、利用者は自由に行き来できるガーデンテラスで日光浴や家庭菜園・お花見・焼き芋パーティーを楽しみコロナ禍でも閉塞感のない日々を過ごしている。認知症介護指導者の管理者は職員とコミュニケーション良く、利用者本位のケアを目指し食事は椅子に座る・おむつゼロ・入浴は夕食後に・おやつ作り・体操・お手玉・カラオケ・習字・花植え・塗り絵など毎日のレクリエーションを全職員で企画し取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を入職時に説明し、目に見える所に掲示している。毎日の朝礼時に理念を復唱して共有し、実践に繋げている。玄関先に看板を出し看板にも理念を掲示し、来客者にも見えるようにしている。	法人理念「高齢者福祉を通じて人々の幸せを求めてまいります。それはご利用者様、ご利用者の家族・地域の人々の喜び・幸せであり、また私たち自身の喜び幸せでもあります。」を建物入り口や玄関・事務室に掲示し、事業所の目標も掲げ朝礼時に唱和して実践に繋げている。会議時に事業所独自の理念について話し合う機会を作るとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体のゆうけい祭りに地域の方にご参加いただいている。また地域の行う福祉祭りに参加し、地元の人との交流の機会を創っている。地域の方にレクリエーションボランティアとして複数の団体の方々に入ってもらっている。	自治会に加入しつづき祭りや地域の行事に参加し、福祉祭りにも出店して交流している。法人主催の「ゆうけい祭り」に地域の方々の多数の参加を得ている。大正琴やフルート・紙芝居・脳ばんざいのボランティアの訪問を受けている。介護実習生の受け入れや中学生の車椅子体験の受け入れをしているが、今年度はコロナ禍を考慮して受け入れはしていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校に『認知症ってなあに』の研修を実施した。専門学生などの体験受け入れにより、認知症の人の理解の学びの場としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を実施し、ご入居者の状況や行事の参加や事故の報告を行い、ご家族や地域の有識者からの要望や評価をいただいている。会議で出た意見を取り入れサービスの向上に活かしている。	2か月に1度家族や民生委員・女性部長・社協代表・地域包括支援センター職員・知見者として法人理事長が参加して事業所の現況報告や行事案内をして、意見やアドバイスを運営に活かしている。利用者の日常をスライドショーで観てもらい参加者は楽しみにしている。コロナ禍で書面開催になり意見やアドバイスを貰える様返信封筒を同封し郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大阪市老人施設連盟のグループホーム分科会に加入し大阪市職員にも参加頂き相談を行っている。区の施設サービス部会への参加や随時、市や区役所に相談し協力関係を築けるよう取り組んでいる。	行政の担当部署に事業所の困りごとの相談に出向いたり研修案内などを受け、コロナ禍でアルコール消毒液やマスクの支給を得るなど良好な関係を築いている。グループホーム連絡会に参加して他事業所と意見交換の場としている。キャラバンメイトのお手伝いをすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束廃止会議の中で具体的な項目について触れ、研修も行い、理解を深めている。玄関の施錠においては、運営推進会議での検討の結果、必要時に開錠するよう家族から許可をもらっている。	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を毎月開催して、職員研修会でスピーチロックや不適切なケア等具体的に話し合い確認して拘束のないケアに取り組んでいる。身体拘束等の適正化のための指針を作成し、年間研修計画に取り入れている。玄関は日中見守りがあるときは解除しており、テラスには自由に出入りして閉塞感のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の研修や事例検討を行い、なにが虐待に該当するのかを学んでいる。虐待が発展する前から小さな芽を摘む日々のあり方と風土作りに努めている。身体的虐待だけではなく、広い意味での虐待を理解してもらうように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されているご入居者がおられる。研修等で日常生活自立支援事業や成年後見制度の必要性について学ぶ機会を持ち、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にその都度説明しながら疑問点がないか尋ねながら行っている。後日に疑問点がでて理解と納得いただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置している。また、普段から苦情が言いやすい雰囲気心を掛け、それぞれ担当をつけ、ケアカンファレンスや年6回の運営推進会議や年4回家族会の中でも要望をお聴きし運営に反映させている。	家族の面会時に話を聞くようにしており、担当職員が要望を聞きとりパソコンに入力して皆で共有している。毎月発行している「スマイル新聞」に利用者の写真を載せて様子を伝え担当職員のコメントも記載している。年数回の家族会や運営推進会議でも要望や意見を聞いて運営に反映するようにしている。利用者からは日常の会話の中で意見や要望を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや朝礼の中で職員からの意見や提案を反映させている。定期的な職員とのミニ面談や自己申告書の配布、人事評価のフィードバックもしている。一般職員と身近な主任の意見を反映するため、管理者主任会議も実施している。	毎月のフロア会議で意見や要望が言え、管理者と個別面談の機会があり、自己申告書を用いて人事評価・体調・ケア・資格支援等の話をし、コミュニケーションがとれている。法人全体の「ゆうけい祭り」には当事業所職員も参加している。職員は給食・感染・事故防災・生活快適・行事の委員会を受け持ち、毎月順番でレクリエーションを担当し、全員で外部評価の自己評価をしてモチベーション向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度や自己申告書の配布、人事評価制度等により、自己目標を持ち勤務を遂行している。自己目標等がスキルアップや向上心につながっており、役割を分担し責任感を持って働ける環境を作っている。各資格取得希望者には授業料等の資金面のサポートをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修に力を入れ、職員それぞれに講師になってもらい職場内部研修にも力を入れている。希望の研修を事前に聞き取っている。業務の中で気付いたことは、その場で指導し働きながらトレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市老人施設連盟(グループホーム分科会)や住吉区介護保険サービス事業者連絡会などの参加により他同業者との集まる機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階で本人の生活歴や嗜好、不安なことや要望をお聴きし、要望を一覧表にして職員に周知している。ケアプランは最低3か月に1回はプランの見直しを行っている。サービスの変更時は随時プランの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の置かれている状況や環境を傾聴し不安なことや、求めておられることを受け止め、整理しまとめています。安心して入居いただける関係づくりに努めています。できること、できないことを明確にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の話しをよく聴き、適切なサービスは何であるのか、複数の選択案を例にあげ、ご本人ご家族が決断しやすいように他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々ご入居者と共に共有し、知恵や考え方を学ばせていただいている。自立支援を念頭に支えあう関係を築き、人生の先輩として敬愛の念を持って接し、頭ごなしに否定しない暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況の報告を面会時や電話、毎月発刊している新聞に近況を報告し、考えられるリスクの想定や期待できる目標等を一緒に考え、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時等に馴染みの人や物・場所をお聴きし、馴染みの物を持ってきたり、馴染みの場所に出掛けられる様配慮している。また、馴染みの人が気楽に訪問頂けるようご案内し、支援している。	家族や親戚の人が訪ねて来てくれ、以前のかかりつけ医も様子を見に来てくれ会話を楽しんでいる。フェイスシートなどから利用者の生活歴を把握し馴染みの関係が継続でき、行き慣れた美容院に送迎している。家族とLINEを使ってのオンライン面談をしている。利用者の希望を聞いて難波に出かける等個別支援をしている。聞き取った情報をセンター方式の用紙に書き足し皆で共有して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を日々の暮らしの中から把握し、一人ひとりが孤立しないように、支え合えるようレクリエーションや食事の席、外出に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご迷惑にならないければ、その後のご家族への連絡を取り、経過をお聴きしフォローや相談や支援に努めている。退居となった方には、色紙をお渡しもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望をお聴きし意向の把握と書面にまとめ職員に周知している。日頃からご本人の体調や気分配慮し意向を尊重している。困難な場合でもご家族と話し合い、画一的にならないよう検討している。また、担当職員によるモニタリングを毎月作成しており、言葉だけでなく仕草などからも本人の思いを汲み取るようにしている。	契約時に家族や利用者から思いや意向を聞きだし作成したフェイスシートを皆で共有して利用者の思いに沿った支援に取り組んでいる。担当職員が毎月の目標を決めモニタリングをしており、「利用者の声を聞こう」として利用者の声を聞きだし思いを汲み取る工夫をしている。思いを伝えることが困難な利用者の場合は家族から情報を得て相談して支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人から今までの生活歴や馴染みの暮らし、生活環境をお聴きし、馴染みの家具等に囲まれ生活していただいている。住み慣れた生活環境の延長となるような経過の把握に努めている。可能な時はご入居前のご自宅の様子を見せていただき配置など参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方、心身の状態をケアプランにまとめ、状態の変化や有する力の変化を振り返っている。朝礼時の直近のご様子の報告と毎日モニタリングチェックを行い、意識して現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本位のケアプランの作成に向けて、家族、主治医、看護師、職員と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、日々の振り返りの中から毎月独自のモニタリング様式を作成し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の希望を聞いて毎月のモニタリングを参考にして医師や看護師・担当職員とサービス担当者会議で話し合い介護計画を作成している。都合のつく家族は参加しており、短期3か月長期6か月としてしているが利用者の状態に変化があれば関係者と話し合い利用者にあった介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等をパソコンでの専用ソフトに個別記録を打ち込み、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。モニタリングも全職員に閲覧してもらっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じたニーズが行える様、画一的にならないよう柔軟な個別支援と日頃から様々なケースを予測してサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々なボランティア(脳活性化ボランティア、習字、フルート、小中学校慰問、地域の会館での催し、地域のお祭りなど)との協力を図り、豊かな暮らしを楽しめる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の有無や希望をお聞きし、希望により、併設の診療所に週3回内科医、月2回精神科医が来ているので、受診していただき適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者は法人建物内に併設されている診療所から内科(週3回)・精神科(月2回)の受診の機会があり希望者のみが受診を受けている。歯科は週1回の往診、歯科衛生士の往診は月に1回あり、それぞれ希望に沿った受診を受け、受診の内容はパソコンの介護記録に入力して職員との共有がなされている。日常の健康管理は訪問看護師(週1回)の訪問により細やかな指示を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し、日常の健康チェックと併設の診療所の内科医・精神科医や看護師と連携しながら、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心して治療できるように、併設の診療所の担当医と相談を行い、病院関係者に診療情報を送りホーム内での内服薬や普段の生活習慣等報告している。早期に退院できるよう病院関係者との情報の交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、主治医の見解を聞きながら、できる範囲とできない範囲を明確にして必要時には十分に話し合う予定。ご家族の協力とご理解の下、事業所で可能であると判断した場合について、訪問看護師や併設診療所のDr. と相談の上チームで取り組む予定。	契約時に「重度化や終末期に向けた事業所対応指針」のもとに事業所として出来る事と出来ないことの説明を行い同意を得ている。「緊急搬送時の対応についての同意書」も備えて、終末期や医療行為が必要になった時点で医師の判断の下に本人や家族と話し合い今後の方針を共有している。	重度化等に関する事業所対応方針は、事業所の既存方針を基に、家族等の思いや希望を受け入れた対応を採り入れた内容で同意が得られる方向で検討されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、ホーム内で具体的に起こり得そうなケースを想定して心肺蘇生法の練習や初期対応の訓練、通報練習を定期的に行っている。AEDを設置しており、いつでも使用できるようにしている。定期的に救命救急の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隔月に避難訓練を実施し、危機意識の向上と対応方法の練習を行っている。災害時の避難誘導マニュアルを作成し避難訓練を実施している。すぐ前にある中学校に避難するよう協力を得ている。	災害対策は法人で年2回の合同訓練を行い、事業所としては2カ月毎にトランシーバーを使った自主訓練(日中・夜間想定)を繰り返し実施している。地域の福祉避難場所と指定されており、自家発電装置や簡易ベッドを備えている。区の施設連絡会で実施されるトランシーバーを使った通報訓練に参加している。非常物品は懐中電灯・簡易トイレ・水・カンパン等があり、同建物の法人厨房の倉庫にも別途食糧の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護及び個人情報保護のマニュアルを作成し、内部研修も実施している。羞恥心に配慮したケアと言葉かけは、人生の先輩であることを意識し人格を尊重した言葉かけや対応を心掛けている。	年に1回、プライバシー研修を実施している。また言葉遣いに関する研修も現場職員が講師役となって数回実施し、利用者の人格尊重をした言葉かけを学ぶ機会を作っている。子供扱いせず、自己決定してもらうことを大切に、きめ細やかなケア体制がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で出た希望などは共有し反映している。普段から個別支援に力を入れており、『私のことをもっと見て、聴いて』を月間目標に取り上げた。ご本人の思いに歩み寄り、自己決定しやすいように働きかけている。職員間で情報を共有し、自己決定の大切さを理解してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、食事時間や起床・就寝時間、散歩、買い物、入浴等希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう、ご家族にも服の趣味などをお聞きしている。選択できる方にはその日に着たい服等を聞き、一緒に選ぶようにしている。昔からの行きつけの美容院へ行く支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら、調理盛り付け、食器洗いなどを行ってもらい、自身で作る楽しみをもっといただいている。食事席は車椅子の方には座椅子に座り替え、足台を工夫し正しい姿勢で食事ができるようにしている。自身の力が活かせるように器にも工夫し自力摂取を支援している。	食事は法人内厨房で調理された料理が毎食運ばれ、事業所内ではご飯や汁物をつくり、利用者と共に盛り付けやテーブル拭き等行い、職員も同じ献立を食べている。車イスの方には座イスに座り替え足台を作って後傾を防ぎ、ナイロンエプロンは使わない等工夫している。給食会議を開き行事食やイベント時、誕生日には意見を集約してお買い物に行き、菜園からの野菜を使った料理で楽しんでいる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の主食摂取量の設定と水分摂取量1日1500ccを目指している。テーブルにはポットを置きいつでもお茶を飲めるようにしている。栄養士により考えられたバランスのとれたメニューと一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後、その方の力に応じた口腔ケアに努めている。歯科医の往診と歯科衛生士によるブラッシングと指導を行ってもらい、歯間ブラシやスポンジを使って、日々の口腔ケアに反映させている。義歯を洗浄し衛生面にも配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ0を目指し、一人ひとりの排泄の状況や行動を把握し、個人にあったトイレ誘導の工夫をし、日中は身体的に重度となってもトイレでの排泄を心掛けている。安易にオムツに頼らないようにしている。	管理者は職員と共に一人ひとりの状態にあったおむつゼロを目指して、トイレ誘導に力を入れ、完全自立の人が1名、要介護5の人を含めてほとんどの方がおむつを使わず布パンツにパッドで過ごしている。夜間は定時見廻りしながらおむつは使わないでポータブルトイレを使ったり布パンツにパッドで一人ひとりの状態に合わせた支援体制がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらい、排便チェック表を作成し、便秘がちな方には、水分ゼリー、繊維質の多い果物の購入を勧め、散歩や軽体操などの運動、腹部のマッサージ等を実施している。便秘が改善しない場合、訪問看護師や医師と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別にお誘いしゆっくりと入浴して頂いている。湯船の中では会話が弾み、夕食後に入浴する夜間入浴も実施。入浴剤や季節に応じたゆず湯やしょうぶ湯も好評である。浴槽にリフトを設置し、浴槽をまたげない方も入浴が可能。脱衣室では邪魔にならないBGM音楽を流している。	入浴は基本週3・4回としているが夕食後の夜間入浴の希望にも対応できる個別支援体制がある。浴槽は2方向から介助が出来、またげなくなった3名の利用者はリフトによる入浴がなされている。入浴拒否の利用者には気分を変えたり足浴に変更している。時にはBGMをかけたり、季節によりゆず湯・菖蒲湯等を楽しみ冬場のお風呂上がりに保湿剤や化粧水を使い、その人に合った支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の散歩やレクなどで身体を動かしてもらい、適度な疲労からゆっくりと休息が取れるようにしている。また、夜間入浴や足浴を行い、入浴後そのままパジャマを着てもらい夜間の入眠に繋げている。冬場には入浴後や眠前に保湿剤を塗りしっとりして安眠に繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬の説明書をファイルしており、また、どの職員が見ても一目で分かるように、一覧表にしており、薬の効能をスタッフ全員が分かるようにしている。症状の変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を考慮し、喜びのある日々を過ごせるよう得意な役割づくりを行っている。希望者にのみ行なってもらい、強制はしない。嗜好品は、家族と相談のうえ購入している。毎晩晩酌されている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の機会を多く持ち、外気に触れてもらい四季を感じてもらっている。地域の喫茶店、スーパー等へ買い物に出掛けている。普段行けない場所にもご本人、ご家族や職員と相談し地域の催しにも参加している。	レクリエーション担当職員の計画により、日常的に近くの公園やスーパーへの買い物、地域の催し、車での遠出にも大阪府下さまざまな場所を車で訪れ楽しんでいた。コロナ禍の中でも12月まで個別外出にも力を入れていたが、今年になり事業所廻りの散歩、広い庭さきのテラスを活用したバーベキュー、外気浴、日光浴に切り替えている。年明の初詣はリモートを使い皆で手を合わせて喜ばれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出納帳を作成し職員2名で管理し、毎月コピーをご家族に郵送している。預かり金は、ご本人の財布にてホームで管理しているが、外出や買い物等では本人が使えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者の希望に応じて携帯電話や手紙など自由にやりとりして頂いている。ご家族と連絡がとりやすいように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木製を主とした色調にこだわり、台所や浴室も家庭用のものを設置している。共用生活空間には観葉植物や生花を飾り、季節感を取り入れている。照明は暖色系を基本とし、生活感や居心地良く過ごしていただけるように工夫している。清潔と湿度にもこだわっている。廊下にはソファを置き、歩き疲れた時に座れるようにしている。	共用リビングは管理者の意向で観葉植物が置かれ加湿器が6台設置されている。テーブルや対面のキッチン、事務所カウンターなど数箇所に生花が飾られ、憩いの静養コーナーには炬燵が置かれ、季節がらお雛飾りが家庭的な雰囲気を出していた。デイサービスから3名の方の訪問があり、ソファベッドの設置もある。広いテラスを活用して焼き芋やバーベキュー等を行い利用者が楽しく、居心地良く過ごせる工夫が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも、食堂のテーブルに加え、座談コーナーやテレビをゆっくりと見られるコーナー、食堂静養室を設置している。独りになれたり、気の合った方同士で過ごせる居場所の工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面を考慮しながら、居室に入る限り使い慣れた家具や馴染みの物を、本人・ご家族の好みに合わせて自由にレイアウトして頂き、居心地よく過ごせるようにしている。	居室には大きな窓があり、ベッド(マット付)、ユニットバス、洗面台(鏡付き)、換気扇、防災カーテンが設置され、利用者は家族と相談して加湿器、テレビ、椅子、洗濯干し、家族写真などさまざまな思い出の物を持ち込んで居心地良く過ごせるように工夫がなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を念頭にできること、難しそうなことを見極め自立した生活が実現できるよう支援している。建物はバリアフリーとなっている。できる限り自分の力で行動できるように、また、職員の見えない支援で自立した生活が送れるように配慮している。		